



ブルー・シトロ

クローバー

クローバーは
幸せをはこぶ
みんなと違う
4つの葉っぱ
幸せのしるし

私も なんだか
みんなと違う
けども私は
嫌われている
幸せじゃない

何が違うの？

夏

灰色の地面ばかり
見続けてきた

ふと顔を上げ
何十日ぶりかに
目に映る
緑

自分が
人間であること
生きていることを
思い出す

夏は
もう
すぐそこに

孤独

人に会えることが
こんなにも嬉しいなんて
私の心は
壊れてしまったのでしょうか

夢のかけら

その
手にさげた
小さなかごに
いっぱい
詰まっているのは
幼いころの
夢のかけらたち

この
長い長い道
一歩
足を進める度に
ひとつ
かけらがこぼれる

歩き続けて
いつか
大人になる日には
この
夢のかけらは
すべて
失われてしまって
いるのでしょうか？

仮面の夢

鏡に映る
自分の顔が
自分の顔では
なくなっていた

「違う！」
叫びながら
偽りの顔を
剥ぐ

そんな悪夢

醒めてから思う
あの顔は
確かに
見慣れた
自分の顔だった
のに

私はその下に
何を
求めていたのか

窓のない部屋

いつになったら
許してくれるのか
もうそろそろ
開けてくれないか

イエエ
ワ タシハ ナンネンモ
クラヤミノ ナカデ
コレカラモ
イツマデモ
アナタタチノセイデ

デルコトハユルサナイ

私が外に
出たいわけじゃない

私を見張り続ける
あなたに
そろそろ
光の中を
歩んでほしいだけで

憐憫

傷口から流れ出るのは
いちご色した甘い蜜。

そうか、
だからみんな
私の傷を
舐めたがるのね。

ありがとう

あどけない微笑みで
心を浄化してくれた
きみに

りっぱな生き様を
示してくれた
あなたに

がんばって
辛い現実になえつつ
私を頼ってくれた
あの人に

とうめいな言葉で
孤独を癒やしてくれた
彼女に

うきずみする心を
見守ってくれた
みんなに

.....ありがとう。

後ろ姿

あなたは
今日
また一歩
前に進んで

いつまで経っても
縮まらない
距離

追いつくことは
出来ないけれど

いつか私も
今あなたが立つ場所に
辿り着けるように

あなたの背中を見つめ
三百六十五日を
一歩ずつ
歩いていくのです

ことば

どこからか
生まれ来た
数十数百の
記号の集まり

それは
見えない糸を通っ て
私に入り込み
私を
動かしている

そして
いつか

私も
誰かを
動かして